



テーマコラム



OH!WOO!! 紙でしかできないこと

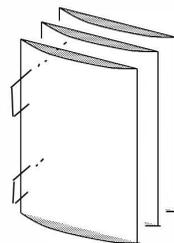
ふちんかん

我々の機関誌『OH!WOO!!』が昨年まで連綿と「紙」ベースで発行されていたことを振り返り、「紙でしかできないこと」を考えてみた。

袋とじを利用する

創刊時より和本の手法である「袋とじ」で製本されてきたOH!WOO!!。両面印刷に比べてエコではないのだが、輪転機を回していた当時は、両面印刷の歩留まりの悪さとか編集の煩雑さとか、単純に厚みが欲しかったとか様々な理由があったのだと思う。

この製本方法を利用して、内側（見えなくなる部分）に何か記載するとか、袋とじを開けると新たにページが現れる（本来の袋とじ手法の目的）とかどうだろうか。やろうと思えばできたとは思いますが、綴じ際の負担を考えてか、この方法を利用した方はおられなかったなあ。



3D飛び出す絵本風に

しかけ絵本というジャンルがある。切れ目が入ったページを開くと、折りたたまれていた立体物が現れるというモノだ。OH!WOO!!では左右のページが別々になっているので、実現は難しいが、片方のページで手で持ち上げる形なら、あるいは出来たかもしれない。



付録付き

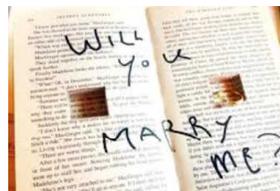
子ども向けの学習雑誌やマンガのように付録を付けるとか。昔ソノシートというレコードプレーヤーで再生できる塩ビ製の円盤が付録についていたのも懐かしい思い出だ。



くりぬいて小物入れにする

スパイ小道具のように、数十ページを貫くように穴を開けて、小物入れとして使う。

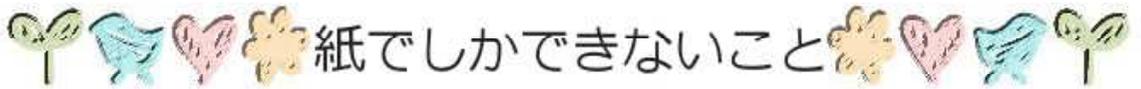
こうなるともう、読むモノではなくなってしまうな。



パラパラ漫画

コーナーにパラパラ漫画を描く。まあ完成してからご自由にどうぞって感じか。

とまあここまでは、ネタ・駄洒落レベルの内容だ。さて真面目にいこう。

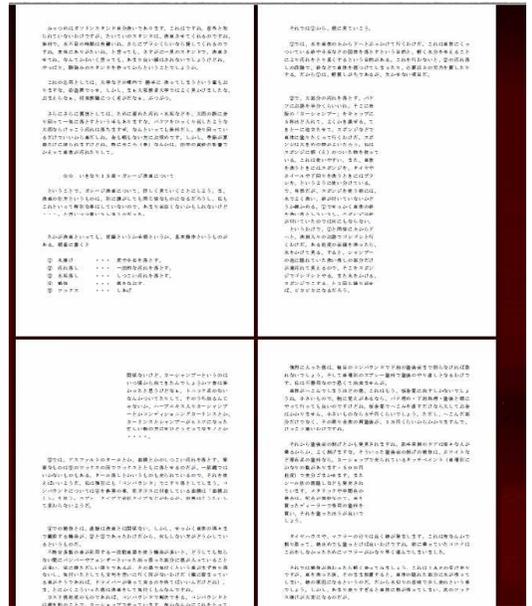


写真を貼り付ける

これは実際に何度かあった。とくにPCによる原稿作成とデジカメの普及が一般的ではなかった頃は、原稿を作るさいに写真のスペースを空けておき、あとからコピーした写真を貼り付けて、完成させていた。

右の1989年の原稿がその例で、大きな空欄が写真やイラストを入れる予定の場所。

それでも最終的に黒色インクで印刷されるので、写真は当然モノクロになり、黒や赤などの暗色は潰れ、形が分かる程度にしかプリントされなかった。当時はいかに元のイメージを伝えるように写真のコピーを取るのかが、ひとつのテクニックであった。



こういった不便を力業で解消していたのが、印刷後に「写真を貼り付ける」という手法である。50万部を超える冊子一つ一つに写真を貼り付けていくことは、気の遠くなる作業であるが、それをしてまで写真で伝えたいものがあったということだ。

厚みや重量感

アナログ・デジタルというか、リアルかバーチャルの違いというか。仲間との共同作業の成果を、形として手に取る際に得られる達成感が大切に思える。アナログ世代にはやはり成果物による達成感は忘れられないのである。現に私はPDF化しても、自宅のプリンタで印刷して、小冊子として保存している。

・読みやすい

そして実物のよいところは、どこでも・どんな体勢でも読めること、有り体に言えば、ゴロゴロしながらでも読めるってことだな。もちろんPDFでもタブレット端末で読めるのだが、老眼の目に小さなタブレットの文字は読みにくく、拡大すれば一覧性が悪くなり、大きなタブレットは重く、寝落ちでもしようものなら顔面直撃の憂き目に遭うのである。また、読みかけからの再開や任意のページが開けやすいことも紙のメリットだ。PDFはしおり機能があるものの、なんとなくこの辺、みたいなページの開け方が難しいように感じる。

ということで、紙によるメリットもたくさんある。私自身は電子化を進めてきた一員としての自覚はあるが、これは印刷作業の省力化を狙って行ってきたものであり、「紙の」・「成果物としての」OH!WOO!!にはおおきな魅力を感じているのである。



過去原稿 1996年マニア11より

Making of WOO!

OH!WOO!! はこうして作られる

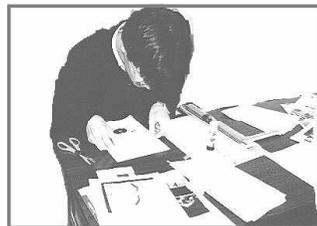
いきなりですが、あなたが手にしている「OH!WOO!!」の作り方をご紹介します。これを参考にして、ご家庭でもぜひお作りになってみてはいかがでしょうか。

1.編集

集まってきた原稿は、内容によって分類され、ページが決まります。このとき黒板に順番に書いていくのですが、マニアの時は黒板が一杯になり壮観です。

2.貼る

ページが決まると台紙と呼ばれる紙に原稿を貼り付けていきます（写真）。このとき、いがまないようにゲージと呼ばれる紙を台紙の下に敷いて貼っていきます。ページの上には内容を表す「帯」、下には「ページ番号」のシールを貼り、印刷原稿の出来上がりです。



3.刷る

印刷機で刷ります。創刊当時は手回しの輪転機でインクまみれになりながら印刷していましたが、現在では写真のように高速印刷機を用い、スマートにできます（いぶきに感謝）。



4.折る

印刷した紙は、一枚一枚手で折っていきます。

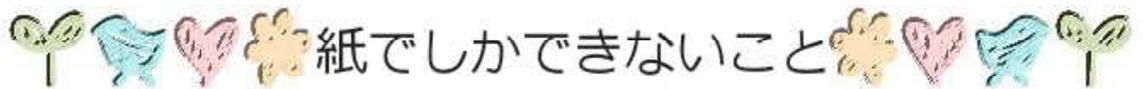
マニアの時など指紋が無くなるばかりに折り続けます。上手に折る人を「織り姫」といいます。最近のマニアの印刷では、職場から紙を折る機械を無断借用してくる人（へ）がいて助かります。



5..集める

同じページどうしを束にして、ページ順に並べていきます。そして順番に集めていきます。200ページだと100枚もあるので、気が遠くなります。これは機械化は無理でしょうね。ひたすらマンパワーで乗り切るしかありません。

ぐるぐると一つのテーブルを廻りながら集めていくので、「バターになる～」などと



いう冗談でも言いながらやると良いでしょう。

ちなみにこの作業は、腰の悪い者にとっては
[拷問]です。



6. とじる



一冊分の紙が集められると、それを超大型のステープラーで綴じます。カモいりますが、紙に逆らわないテクニックも要求されます。力だけの人(←)はダメです。

7. 背表紙をつける

マニアの時は特別に、背の部分に製本テープを貼ります。最後の仕上げ、慎重さが要求されます。



8. 完成

できあがった OH!WOO!! を前に万歳三唱です。
みんな、この後の宴会が楽しみではないがありません。

9. 配本

お近くの OH!WOO!!レディが、
あなたの元へ配達します。

またいぶきの登録団体や事務局、WOOと交流のある「上方道楽研究会」「光楓エレクトロニクス研究会」へも送られて、お互いの交流に役立っています。



10. あなたも

印刷に参加してみませんか。原稿を書くのも楽しいけど、印刷はもっと楽しいですよ～
(特に終わってから……)。

過去原稿 1996年マニア11より
(写真は掲載時より縮小しております)